

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
 (仮称)京都日野自動車(株)綾部支店新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.5</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.32</b>				<b>2.8</b>
<b>1 音環境</b>				<b>3.0</b>	<b>0.15</b>				<b>3.0</b>
1.1 室内騒音レベル				<b>3.0</b>	<b>0.40</b>				
1.2 遮音				<b>3.0</b>	<b>0.40</b>				
1 開口部遮音性能				<b>3.0</b>	<b>0.60</b>				
2 界壁遮音性能				<b>3.0</b>	<b>0.40</b>				
3 界床遮音性能(軽衝撃源)									
4 界床遮音性能(重衝撃源)									
1.3 吸音				<b>3.0</b>	<b>0.20</b>				
<b>2 温熱環境</b>				<b>2.1</b>	<b>0.35</b>				<b>2.1</b>
2.1 室温制御				<b>2.1</b>	<b>0.50</b>				
1 室温				<b>2.0</b>	<b>0.38</b>				
2 外皮性能		窓SC=0.45、窓U=2.60、外壁U=0.486、屋根U=0.382		<b>4.0</b>	<b>0.25</b>				
3 ゾーン別制御性				<b>1.0</b>	<b>0.38</b>				
2.2 湿度制御				<b>1.0</b>	<b>0.20</b>				
2.3 空調方式				<b>3.0</b>	<b>0.30</b>				
<b>3 光・視環境</b>				<b>2.8</b>	<b>0.25</b>				<b>2.8</b>
3.1 屋光利用				<b>3.0</b>	<b>0.30</b>				
1 屋光率				<b>3.0</b>	<b>0.60</b>				
2 方位別開口									
3 屋光利用設備				<b>3.0</b>	<b>0.40</b>				
3.2 グレア対策				<b>2.0</b>	<b>0.30</b>				
1 屋光制御				<b>2.0</b>	<b>1.00</b>				
3.3 照度		事務室:800lx		<b>4.0</b>	<b>0.15</b>				
3.4 照明制御				<b>3.0</b>	<b>0.25</b>				
<b>4 空気質環境</b>				<b>3.7</b>	<b>0.25</b>				<b>3.7</b>
4.1 発生源対策				<b>4.0</b>	<b>0.50</b>				
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆建材を全面的に使用		<b>4.0</b>	<b>1.00</b>				
4.2 換気				<b>3.6</b>	<b>0.30</b>				
1 換気量				<b>3.0</b>	<b>0.33</b>				
2 自然換気性能		事務室で1/30以上		<b>4.0</b>	<b>0.33</b>				
3 取り入れ外気への配慮		給気位置と排気位置は6m以上離れて設置		<b>4.0</b>	<b>0.33</b>				
4.3 運用管理				<b>3.0</b>	<b>0.20</b>				
1 CO <sub>2</sub> の監視				-	-				
2 喫煙の制御				<b>3.0</b>	<b>1.00</b>				
<b>Q2 サービス性能</b>					<b>0.30</b>				<b>3.2</b>
<b>1 機能性</b>				<b>3.5</b>	<b>0.40</b>				<b>3.5</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>3.0</b>	<b>0.40</b>				
1 広さ・収納性				<b>3.0</b>	<b>0.33</b>				
2 高度情報通信設備対応				<b>3.0</b>	<b>0.33</b>				
3 バリアフリー計画				<b>3.0</b>	<b>0.33</b>				
1.2 心理性・快適性				<b>4.3</b>	<b>0.30</b>				
1 広さ感・景観		事務室:CH=2.8m		<b>4.0</b>	<b>0.33</b>				
2 リフレッシュスペース		リフレッシュスペースが執務スペースの1%以上		<b>4.0</b>	<b>0.33</b>				
3 内装計画		建物全体のコンセプトや機能が明確であり、事前に検証を行っている		<b>5.0</b>	<b>0.33</b>				
1.3 維持管理				<b>3.5</b>	<b>0.30</b>				
1 維持管理に配慮した設計				<b>3.0</b>	<b>0.50</b>				
2 維持管理用機能の確保		掃除具スペース、廃棄物スペースの設置等、建物の維持管理に適切な設備を設置している		<b>4.0</b>	<b>0.50</b>				
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.3</b>	<b>0.30</b>				<b>3.3</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.0</b>	<b>0.50</b>				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				<b>3.0</b>	<b>0.80</b>				
2 免震・制震・制振性能				<b>3.0</b>	<b>0.20</b>				
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>4.0</b>	<b>0.30</b>				
1 躯体材料の耐用年数				<b>3.0</b>	<b>0.20</b>				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		ガルバリウム鋼板:30年		<b>5.0</b>	<b>0.20</b>				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床:ビニル床20年、壁:ビニルクロス(PB共)20年、天井:ホト型30年		<b>5.0</b>	<b>0.10</b>				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				<b>3.0</b>	<b>0.10</b>				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水汚水給湯管の主要用途3種についてB以上で、Eは不使用		<b>5.0</b>	<b>0.20</b>				
6 主要設備機器の更新必要間隔				<b>3.0</b>	<b>0.20</b>				
2.4 信頼性				<b>3.0</b>	<b>0.20</b>				
1 空調・換気設備				<b>3.0</b>	<b>0.20</b>				
2 給排水・衛生設備				<b>3.0</b>	<b>0.20</b>				
3 電気設備				<b>3.0</b>	<b>0.20</b>				
4 機械・配管支持方法				<b>3.0</b>	<b>0.20</b>				
5 通信・情報設備				<b>3.0</b>	<b>0.20</b>				

<b>3 対応性・更新性</b>			2.8	0.30	-	2.8
3.1 空間のゆとり			3.4	0.30	-	
1	階高のゆとり	0.1≦[壁長さ率]<0.3	3.0	0.60	-	
2	空間の形状・自由さ		4.0	0.40	-	
3.2 荷重のゆとり			2.0	0.30	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	
2	給排水管の更新性		1.0	0.20	-	
3	電気配線の更新性	天井内転シ配線・PC管配線等により仕上材を痛めずに更新・修繕	5.0	0.10	-	
4	通信配線の更新性	PF管配線等により仕上材を痛めずに更新・修繕	5.0	0.10	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.38	-	1.8
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>						3.1
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	2.7
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPIm=0.63	5.0	0.05	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.12	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.86	2.7	0.60	-	2.7
4 効率的運用			2.5	0.24	-	2.5
集合住宅以外の評価			2.5	1.00	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	
4.2	運用管理体制		2.0	0.50	-	
集合住宅の評価			-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	3.5
1 水資源保護			3.4	0.20	-	3.4
1.1 節水		節水型便器や水栓を採用	4.0	0.40	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.6	0.60	-	3.6
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		土間下スラブボード、天井・岩綿吸音板	4.0	0.20	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		内装が乾式工法で別が容易、OAFDF採用	5.0	0.20	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	
1	消火剤		-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	発泡断熱材はノンフロン製品を採用	4.0	0.50	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		消費エネルギー量削減により運用時のLCCO2排出量低減に配慮	3.3	0.33	-	3.3
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	3.1
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.7	0.25	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	
3	交通負荷抑制	敷地内に駐車・駐輪場・配送車駐車を配置、出口と入口を分けて計画等	5.0	0.25	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	ゴミ置場の設置、有価物の回収等	4.0	0.25	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	
2	振動		-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	
1	屋外用明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害チェックリストと広告物は過半を満たす	5.0	0.70	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	